

広島市の細菌性三類感染症の検査結果 (2012 年)

生 物 科 学 部

は じ め に

広島市内で発生した細菌性赤痢，コレラ，チフスおよび腸管出血性大腸菌感染症など細菌性の三類感染症に対しては，医療機関，保健所，各区保健センターの連携のもと，当所生物科学部において患者や接触者の感染確認のための細菌検査や分離菌株からの遺伝子検査等の疫学解析を実施し，感染拡大の予防に資するよう努めている。

2012 年の細菌性三類感染症の発生状況および検査結果を報告する。

方 法

1 感染症発生状況

2012 年に市内の医療機関から保健センターへ届出された患者の情報および分離され当所に搬入された菌株ならびに当所で患者家族や接触者などの検便から分離した菌株の検査結果をもとに集計した。

2 血清型別および毒素型別検査

届出時に医療機関から行政機関に提供された菌株および当所で関連検体から分離した菌株について，常法による生化学的性状試験，血清型別および PCR 法等の遺伝子検査やイムノクロマト法などの免疫学的検査による毒素型別を実施した。

3 薬剤感受性試験

12 種類の抗生物質 (ABPC, SM, KM, GM, TC, NA, CP, CPF, CTX, ST, TMP, FOM) について，Sensi-Disc (BD) を用いた一濃度ディスク法により試験した。

4 パルスネット解析

厚生労働省通知に基づき，腸管出血性大腸菌の菌株を国立感染症研究所細菌第一部に送付し，パルスフィールド電気泳動による解析に供した。結果は 0157 については Type No. として，026 については 26type No. として還元された。

結 果

1 細菌性赤痢・コレラ・チフス感染症

2012 年は細菌性赤痢，コレラ，チフスの発生届出はなかった。

2 腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症の発生状況を表に示す。患者の届出が 14 件あり，5～9 月の高温期に多くみられた。患者からの分離菌株 14 株は，0157 が 10 株，026 が 3 株，0111 が 1 株であった。0157 は，0157:H7 が 9 株，0157:HNM 1 株であり，うち 3 株が VT2 単独産生，7 株が VT1・VT2 の両毒素産生であった。026 は，すべて 026:H11 で，VT1 単独産生であった。0111 は，0111:HNM で，VT1 単独産生であった。

同時期に併設する高齢者施設の入所者及び施設内にあるデイサービスの職員の患者届出があり，分離菌株のパルスネット解析 Type No. も 1 バンド違いで集団感染が疑われたが，感染源を特定することはできなかった。その他は散发事例であった。

謝 辞

調査にご協力いただいた医療機関および各区保健センターの各位に深謝いたします。

表 腸管出血性大腸菌感染症の発生状況

No.	届出日	住所区	年齢	性別	血清型	毒素型	Type No.	26type No.	薬剤耐性
1	20120511	安佐南	4	男	026:H11	VT1		g84	SM, TC, ABPC
2	20120525	佐伯	38	女	0157:H7	VT2	g255		ABPC
3	20120531	佐伯	21	男	026:H11	VT1		h22	ABPC
4	20120612	東	13	男	026:H11	VT1		h20	ABPC, FOM
5	20120628	安佐南	43	女	0157:H7	VT1VT2	g332		
6	20120628	安佐南	84	男	0157:H7	VT1VT2	h81*		
7	20120703	安佐南	91	男	0157:H7	VT1VT2	g332		
8	20120806	佐伯	10	男	0157:H7	VT1VT2	h115		
9	20120817	安芸	66	女	0157:H7	VT1VT2	h128		
10	20120924	安佐北	70	男	0157:H7	VT2	h325		ABPC
11	20120928	西	68	女	0157:H7	VT1VT2	h330		ABPC
12	20121030	安佐北	11	男	0157:HNM	VT1VT2	h368		ABPC
13	20121101	西	39	男	0157:H7	VT2	g591		ABPC
14	20121122	中	3	女	0111:HNM	VT1			SM, TC, ABPC

*: one band diff. from g332